

令和4年度決算

【概要】

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の流行懸念やウクライナにおける軍事衝突を発端とした世界情勢の緊迫化のなか、収支構造の一層の改善を目指してスタートしました。

収入面では、医療収入と補助金収入は全教職員の的確な対応により予算を上回る結果となり、その他の収入は概ね予算通りとなりました。事業活動収入の合計は1,204億円となりました。支出面では、新型コロナウイルス感染症対応に関わる人件費の特別手当の計上と電気・ガスの高騰により光熱費が大幅に増加しましたが、その他の経費削減により事業活動支出合計1,129億円に留まりました。基本金組入前当年度収支差額は75.5億円の収入超過（黒字）と予算対比で47.6億円を上回る結果となりました。

資金面では、キャッシュフローの改善により当年度未借入金残高は408億円と前年度より72億円の減少となりました。

資金収支計算書

*会計年度の現預金の動きとその内容を表している計算書

1. 収入の部

◆ 学生生徒等納付金収入

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、看護専門学校授業料、入学金、教育充実費等の金額で59.4億円となりました。

◆ 寄付金収入

企業等、篤志家からの教育研究および施設設備にかかる寄付金で、合計5.4億円となりました。

◆ 補助金収入

法人全体で140.2億円となり、前年度とほぼ同額となりました。新型コロナウイルス対応にかかる補助金の影響はありますが、通常の補助金獲得に向けても教育・研究・診療面で注力しました。

◆ 付属事業収入

主に日本獣医生命科学大学の動物医療センターの収入で、付属牧場とワクチン研究施設の収入を合わせて7.5億円となりました。

◆ 受託事業収入

受託研究6.5億円、治験4.6億円他に受託検査・受託指導・受託事業等の収入を合わせて18.9億円となりました。

◆ 医療収入

4病院、3クリニック、健診医療センターの医療収入の合計で946億円となり、前年度実績を約18億円、予算に対しても6.7億円上回りました。

◆ 雑収入

施設設備利用料収入、私学退職金財団交付金収入、過年度修正額を含んでおり、22.7億円の計上となりました。

2. 支出の部

◆ 施設関係支出

当年度の主な案件は、日本獣医生命科学大学の富士アニマルファーム隣接不動産の取得、日本医科大学の生命研空冷化工事、千葉北総病院特養室内装工事および第7手術室増設工事、武蔵小杉病院機械立駐棟建築工事の計上で14.3億円となりました。

◆ 設備関係支出

主に教育研究用機器備品（医療機器含む）の購入等で28.9億円となり、当年度は、日本獣医生命科学大学のMRIシステムと付属病院、千葉北総病院の手術支援ロボット、多摩永山病院の血管造影X線診断装置の購入の計上がありました。

資金収支計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日
(単位: 百万円)

収入の部			
科目	予算①	実績②	対予算①-②
学生生徒等納付金収入	6,016	5,944	72
手数料収入	299	283	16
寄付金収入	664	538	126
補助金収入	5,500	14,024	△ 8,524
資産売却収入	-	1	△ 1
補助活動収入	39	36	3
付属事業収入	811	754	57
受託事業収入	1,786	1,892	△ 106
医療収入	93,934	94,604	△ 670
受取利息・配当金収入	3	3	△ 0
雑収入	2,060	2,272	△ 212
借入金等収入	10,000	5,000	5,000
その他の収入 ※1	35,241	32,646	2,595
資金収入調整勘定	△ 17,500	△ 19,881	2,381
前年度繰越支払資金	8,706	8,706	-
収入の部合計	147,559	146,822	737

支出の部			
科目	予算①	実績②	対予算①-②
人件費支出	45,278	46,224	△ 946
教育研究経費支出	14,867	15,387	△ 521
医療経費支出	34,299	38,116	△ 3,817
管理経費支出	5,506	5,470	36
借入金等利息支出	398	356	42
借入金等返済支出	13,565	12,149	1,417
施設関係支出	3,310	1,425	1,885
設備関係支出	4,736	2,890	1,846
その他支出 ※2	33,187	30,179	3,008
〔予備費支出〕	-	-	-
資金支出調整勘定	△ 15,588	△ 15,269	△ 319
翌年度繰越支払資金	8,000	9,895	△ 1,895
支出の部合計	147,559	146,822	737

※1 その他の収入…前受金収入、未収入金収入、貸付金回収収入金

※2 その他の支出…前払金支払支出、未払金支払支出、貸付金支出等

*科目毎に百万円未満を四捨五入処理のため、合計で必ずしも一致しない。

事業活動収支計算書

* 会計年度の実質的に損益となる収入・支出の内容を3区分して経営状況を表す計算書

1. 教育活動収支

(収入の部)

- ◆ 学生生徒等納付金、医療収入、受託事業収入などは資金収支科目とほぼ同じ意味になり、寄付金と補助金は、施設設備にかかるものを除きます。教育活動収入の合計は1,202億円です。予算比93億円の増加となりました。

(支出の部)

- ◆ 人件費
464億円となり、前年度より1.6億円増加、予算を5.7億円上回りました。当年度も新型コロナウイルス感染症対応の特別手当を計上しました。
- ◆ 教育研究経費（医療経費を除く）
減価償却を含み221.4億円となります。減価償却額は68億円となり、前年度比約12.8億円の増加となりましたが、電気・ガス代の高騰により光熱費が大幅に増加しました。
- ◆ 医療経費
医療経費は医療収入に対する経費で、高額薬品の院内処方の増加や新型コロナウイルス感染症対応等により予算を37億円上回る380億円となり、医療経費率は40.2%と前年度比1.1%の増加となりました。
- ◆ 管理経費
56.5億円です。ほぼ予算通りとなり、減価償却額は1.6億円となります。
- ◆ 徴収不能引当金組入額等を含めた教育活動支出の合計は1,122億円となり、教育活動収支差額は79億円となりました。

2. 教育活動外収支

- ◆ 収入は受取利息で支出は借入金等利息となり、教育活動外収支はマイナス4億円です。1. 教育活動収支と2. 教育活動外収支を合わせた経常収支差額は75.5億円となります。

3. 特別収支

(収入の部)

- ◆ 施設設備にかかる補助金、寄付金と現物寄付を合わせて特別収入合計は2.8億円の計上になります。

(支出の部)

- ◆ 資産処分差額は、日本獣医生命科学大学2,3号棟の解体に伴う建物除却、成田空港クリニック閉所に伴う建物付帯除却と圖書の除却等で特別支出合計は2.9億円となります。

結果、基本金組入前当年度収支差額は75.5億円の収入超過となりました。

事業活動収支計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

【教育活動収支】

科目	予算①	実績②	対予算①-②
学生生徒等納付金	6,016	5,944	72
手数料	299	283	16
寄付金	630	533	96
経常費等補助金	5,319	13,814	△ 8,495
補助活動収入	39	36	3
付属事業収入	811	754	57
受託事業収入	1,786	1,892	△ 106
医療収入	93,934	94,604	△ 670
雑収入	2,060	2,293	△ 233
教育活動収入計	110,894	120,153	△ 9,259
人件費	45,814	46,389	△ 574
教育研究経費	22,016	22,137	△ 122
(減価償却額)	(7,149)	(6,756)	(393)
医療経費	34,299	37,993	△ 3,694
管理経費	5,687	5,654	33
(減価償却額)	(181)	(162)	(19)
徴収不能引当金組入額等	10	75	△ 64
教育活動支出計	107,826	112,247	△ 4,421
教育活動収支差額	3,067	7,905	△ 4,838

【教育活動外収支】

受取利息・配当金	3	3	△ 0
教育活動外収入計	3	3	△ 0
借入金等利息	398	356	42
教育活動外支出計	398	356	42
教育活動外収支差額	△ 395	△ 353	△ 42
経常収支差額	2,672	7,552	△ 4,880

【特別収支】

(単位：百万円)

科目	予算①	実績②	対予算①-②
資産売却差額	—	1	△ 1
その他の特別収入	259	282	△ 23
施設設備寄付金	34	7	27
施設設備補助金	182	210	△ 29
現物寄付	43	64	△ 21
過年度修正額	—	1	△ 1
特別収入計	259	283	△ 25
資産処分差額	137	157	△ 20
その他の特別支出	—	128	△ 128
過年度修正額	—	128	△ 128
開発に伴う土地寄贈	—	—	—
特別支出計	137	285	△ 147
特別収支差額	121	△ 1	123
〔予備費〕	—	—	—
基本金組入前当年度収支差額	2,794	7,551	△ 4,757
基本金組入額合計	△ 7,962	△ 4,862	△ 3,100
当年度収支差額	△ 5,168	2,688	△ 7,857
前年度繰越収支差額	△ 154,839	△ 154,839	—
基本金取崩額	—	233	△ 233
翌年度繰越収支差額	△ 160,007	△ 151,917	△ 8,090

(参考)

事業活動収入計	111,155	120,439	△ 9,284
事業活動支出計	108,361	112,888	△ 4,527

* 科目毎に百万円未満を四捨五入処理のため、合計で必ずしも一致しない。

貸借対照表

*資産の部、負債の部、純資産の部に区分され会計年度末の財政状況を表す計算書

1. 資産の部

- ◆ 固定資産は、富士アニマルファーム隣接不動産購入による土地の増加と、成田国際空港クリニック閉所に伴う建物の減少、富士セミナーハウス増設工事、武蔵小杉病院立体駐車棟建築工事などの建設仮勘定の増加を計上しています。
- ◆ 流動資産の当年度末現金預金残高は 98.9 億円となり、当年度末の資産の部合計は 1,447 億円となりました。

2. 負債の部

- ◆ 当年度末借入金残高は 408 億円で前年度より 72 億円の減少となり、当年度末の負債の部合計は 824 億円となりました。

3. 純資産の部

- ◆ 学校法人会計特有の基本金が記載されています。基本金は、学校の教育活動を安定・継続的に保持していくために必要な資産の金額を観念的にとらえて、事業活動収入から留保したものとされ、第 1 号から第 4 号まで目的に応じて定められています。当年度は、国際空港クリニック閉所に伴う第 1 号基本金の一部取崩を行いました。基本金残高は合計で 2,142 億円となりました。

貸借対照表

令和 5 年 3 月 31 日現在

(単位：百万円)

資産の部			
科目	本年度末①	前年度末②	対前年①-②
固定資産	113,162	115,892	△ 2,730
有形固定資産	111,852	114,552	△ 2,700
土地	22,420	22,362	57
建物	69,121	71,164	△ 2,043
構築物	2,168	2,158	10
教育研究用機器備品	15,155	15,985	△ 830
管理用機器備品	169	175	△ 6
図書	2,417	2,506	△ 89
車両	103	119	△ 16
建設仮勘定	299	82	217
特定資産	58	58	-
第 3 号基本金引当特定資産	58	58	-
その他の固定資産	1,253	1,282	△ 29
長期有価証券	316	316	-
その他	936	966	△ 29
流動資産	31,520	29,176	2,345
現金預金	9,895	8,706	1,189
その他	21,626	20,470	1,156
資産の部合計	144,683	145,067	△ 385

負債の部			
科目	本年度末①	前年度末②	対前年①-②
固定負債	53,341	58,503	△ 5,162
長期借入金	31,106	35,845	△ 4,739
その他	22,234	22,658	△ 423
流動負債	29,083	31,856	△ 2,773
短期借入金	9,739	12,149	△ 2,410
短期未払金	15,458	15,942	△ 485
前受金	2,799	2,770	29
その他	1,087	995	92
負債の部合計	82,424	90,360	△ 7,936
純資産の部			
基本金	214,176	209,546	4,629
第 1 号基本金	206,842	202,213	4,629
第 2 号基本金	-	-	-
第 3 号基本金	58	58	-
第 4 号基本金	7,276	7,276	-
繰越収支差額	△ 151,917	△ 154,839	2,921
翌年度繰越収支差額	△ 151,917	△ 154,839	2,921
純資産の部合計	62,258	54,708	7,551
負債及び純資産の部合計	144,683	145,067	△ 385

* 科目毎に百万円未満を四捨五入処理のため、合計で必ずしも一致しない。